

授業概要

科目名	聴覚検査Ⅰ				授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	2単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2 前期
【授業の目的・ねらい】 自覚的聴覚検査の検査目的を知り実施方法を身に着ける。 また、平衡機能検査の検査目的を知り実施方法を身に着ける。								
【実務者経験】 岡山かなりや学園、まな星クリニックにて、言語聴覚士として小児の聴覚障害および発達障害分野の療育に従事する。								
【授業全体の内容の概要】 聴覚検査機器に実際に触れながら自覚的検査の検査方法を学ぶ。 平衡機能検査各種の検査方法を学ぶ。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 自覚的聴覚検査の目的を理解し、聴覚障害児・者に必要な検査を選択できるようになる。 平衡機能にまつわる疾患別に必要な平衡機能検査の選択ができるようになる。								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	伝音系の構造・機能・病態について説明できる						教科書 配布資料	
2	感音系の構造・機能・病態について説明できる						教科書 配布資料	
3	聴覚検査の意義について理解できる						教科書 配布資料	
4	標準純音聴力検査（気導）について理解できる						教科書 配布資料	
5	標準純音聴力検査（骨導）について理解できる						教科書 配布資料	
6	オージオグラムについて理解できる						教科書 配布資料	
7	オージオメータを操作し、検査を行うことができる						教科書 配布資料	
8	オージオメータを操作し、検査を行うことができる						教科書 配布資料	
9	自記オージオメトリーについて理解できる						教科書 配布資料	
10	語音了解閾値検査について理解できる						教科書 配布資料	
11	語音弁別検査・語音明瞭度検査について理解できる						教科書 配布資料	
12	マスキングについて理解できる						教科書 配布資料	
13	半規管の構造・機能・病態について説明できる						教科書 配布資料	
14	平衡機能検査について理解できる						教科書 配布資料	
15	まとめ						教科書 配布資料	
	定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士テキスト 第4版』医歯薬出版 『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版』医学書院 『病気がみえるvol.13 耳鼻咽喉科』MEDIC MEDIA								
【準備学習・時間外学習】 授業前後に予習復習を行う。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。								